

緑ネット通信

No.90

緑のネットワーク・まつど

代 表 : 藤田 隆
 年会費 : 1000 円
 口座番号 : 00170-9-696174
 連絡先 : 高橋盛男 090-2935-9444

都市の緑を残すためには、緑を見守り育む人のネットワークが不可欠です。私たちの活動の目的は、みどり特に樹林の保護・保全を願う人やグループと連携しその輪を広げ、豊かな生態系を保つ森を次世代に伝えることです。

松戸の緑再発見ツアー

大きなケヤキを取り巻いてみました

藤田 隆

10月12日(日)午前9時30分常盤平駅に集合したのは参加者9人とスタッフ5人。小学生、中学生が一人ずつ参加しました。常盤平駅近くのひまわり公園で後援する松戸市役所みどりと花の課三末課長の挨拶に続き、松戸市の緑地公園について解説をしました。常盤平地区の街区公園には花の名前がついているとのこと、ひまわり、しょうぶ、あべりあ、はなみずき、ふようなどです。常盤平駅を挟んで南側は団地が建ち、北側は住宅地の間に畠、樹林地が残っていると説明がありました。これだけの緑地が残っているのは道路計画が関係していて、計画の範疇にはいった土地は市街化調整区域に指定され、開発が抑えられるため、緑地のまま残ったようです。花の名のついた公園のほか市内の花のグループが花壇への植栽とその後のお世話をボランティアで行っています。

ひまわり公園あたりは住宅に囲まれていましたが、一歩北側に入ると祖光院の周りでは畠が点在し、金ヶ作自然公園が隣り合わせになって緑地が続いていました。祖光院ではヒガンバナが終わり、枯れ始めていました。道路を隔てた金ヶ作自然公園はそれまでうっそうとし、見通しがきかず、危険ではないかという市民の意見から間伐を行い、公園全体が見通せる明るい公園になりました。

三吉の森では所有者の小島さんから江戸時代に川越や見沼用水の方から移り住んできた先祖の話を伺いました。移り住んだ翌年に浅間山の大噴火で火山灰に覆われ、田畠が全滅したが、残った村人たちとつないでき



入植当時から金ヶ作を見守ってきたオオケヤキは大きかった！

たといいます。森には多くの種類の広葉樹、針葉樹があり、一世代、二世代前の当主が集めて植樹した歴史をつないでいるとの話でした。江戸時代は中野牧と言い、野馬の放牧場であり、時に野馬捕りを行っていたと古文書に記録されています。

三吉の森のなかでもひとくわ大きなケヤキのまわりで手をつないでみました。やっとの

事で3人が手をつなぎ、それぞれの身長から幹回りを計算してみたら、169 cm、156 cm、146 cmの併せて468 cmでした。円周率で割ると直径は149 センチとしました。公園や街路樹になっているケヤキとは比べものにならない巨木であることがわかりました。

住居の前庭にあたる観賞用としてモミ、ツガが植栽。モミとツガの葉（痛い、痛くない）。よく見ると地表にモミの稚樹あり。ツガの可愛いマツボックリ、左側にホンサカキ、何種類かのツバキ、サザンカがありました。

次の囲いやまの森では、月に1度、森を一般に開放する「ぶらっとみんなの森」を開催中。来訪していた親子も交えて、ネイチャーゲームを楽しみました。森の中にはハンモックやブランコもあり、皆さん森での遊びを楽しんでいました。



寄稿

暮らしに生きる「街森」の姿を探しながら

松戸里やま応援団 囲いやま森の会 野口 功

活動を始めて 20 年。森はずいぶん変わった。最近伐倒したコナラの切り株は、長径 60cm、年輪は約 90 年。20 年で直径 15cm くらい大きくなっている。一方、当初 780 本を数えた高木は、100 本以上も減っているのではないだろうか。それだけ明るくなり、風が通るようになつた。良くも悪くも植生は変化している。そして、当初はなかった子どもたちの歓声が森にこだましている。

I 期の会の活動を継承して

2005 年、2 回目の里やまボランティア入門講座の修了生で会を立ち上げた。前年の修了生は「松戸里やま応援団」として八ヶ崎の森で活動していたが、当時、講座の修了生がすぐに里やまボランティア団体として活動を始めるとは想定されていなかったようだ。そこで「松戸里やま応援団 II 期」と名乗り、市に活動地のあっせんを求めた。I 期の先進例とそれを引き継ぐ II 期の出発がその後の流れを形作っていったように思う。

はじめのころにやったこと

初年度に樹木調査で森の姿を把握し、エリア別の整備方針を決めたこと、早くも 2 年目から外部の森体験活動を始めたこと、他の会の仲間と一緒に講習を兼ねた伐倒を繰り返したことなどが思い出される。

1 年目（2005 年度）

☆市に活動地選定依頼→候補地見分→所有者の内諾→所有者と協議→町会長に挨拶・回覧依頼

☆通路・作業広場、周回通路内側の下刈り（数年）



樹木調査の結果に基づき、エリア別整備計画を作成した

☆樹木調査（7 日間、20m 四方 40 区画。約 780 本）→エリア別整備方針の策定→枯木の伐倒にも着手

☆物置づくり

2 年目（2006 年度）

☆枯木・危険木の伐倒（約 20 本）。伐倒講習会開催。

☆森の楽校（ちばコーポと連携。2015 年第 9 回まで）



3 年目から始まり、現在まで毎年続いている森の音乐会

☆花王みんなの森づくり助成（3 年間で 100 万円）

3 年目（2007 年度）

☆チェンソー講習、刈払機講習、樹木診断講習など

☆森の音乐会（以降、現在まで毎年）

☆掲示板の設置

連携した活動 松戸里やま応援団へ

はじめのころは何もわからず、いろいろな会合に顔を出し、その後の飲み会が知恵の源泉、活動展開の温床だった。その中から「東葛里やまシンポジウム」を開くまでになった（2008.2）。

毎年の講座で新たな団体が生まれ、「いつまでも飲み会頼りとはいかないね」と話し合っていた。団体が 5 つになった頃、I 期目の会の名称「松戸里やま応援団」を全体のものに提供してもらい、里やま応援団連絡会を始めた（2008.12）。翌年には地権者の要請を受けて秋山の森の整備をみんなで担うことになり、団体としての「松戸里やま応援団」が発足した。「応援団」の結成は、ステップアップ講座など連携を発展させ、2012 年からのオープンフォレストにもつながる力となった。

自発的な活動の拡がり

囲いやま森の会は 2015 年度から新体制となり、会員の自発的な活動が広がった。新たなエリアでアオキの除伐が進み、ヤマユリが咲く明るい草地が出現した。

特に、西側道路沿いの変化が著しい。荒れた笹藪に投棄ごみが散乱するひどい風景が、整然と耕作された畠地と四季を彩る花壇に生まれ変わった。通行人からは笑顔で声がかかり、ごみの投げ捨ては格段に減った。お向かいの家からは、花壇への水もいただけるようになった。お花畠や収穫物は、会員の楽しみであるとともに、森への親近感を広げるよすがともなっている。

多様な活動に魅かれて新会員も増えた。

開かれた森への探求

毎年秋の音楽会や森のアート展受け入れなど、市民が森を訪れる機会を心掛けてきた。2020 年からは里やま応援団と子育て支援団体とのコラボで「あそびの森 in 囲いやま」が開かれ、100 人を超える親子が森を楽しんでいる。23 年 7 月からは毎月第二日曜日に森を公開する「ぷらっとみんなの森」の試みも続けられている。

街中の森は、どうしたら市民に受け入れられ、存続の手立てを講じることができるのだろうか。いま、地域・暮らしと関わり合う森の在り方の探求が、市や大学、地権者や市民ぐるみで進められようとしている。囲いやまの森と育苗圃を一体として、市民に開かれて



あそびの森 in 囲いやま
広く活用されながらしっかりと保全されるモデルケースとなればいいなと期待している。

東葛里山シンポジウム 1st

千葉県各地から森仲間が松戸に集まり交流

緑のネットワーク・まつど 高橋 盛男

プレゼンターはすべて 50 代以下の活動者

10 月 26 日、松戸市において「東葛里山シンポジウム 1st」が開かれました。NPO 法人 ちば里山センターの主催、松戸市の後援で開催されたこの催しは、里山活動が盛んな東葛地区の団体交流を目的としたもので、第一回の開催地に松戸市が選ばれました。

プログラムは、午前中に東松戸・紙敷地区の隣接する 3 カ所の森（紙敷石みや、紙敷みなみ、野うさぎ）の見学。午後は稔台市民センターに場所を移し、「里山への思いを語る 50 代以下の里山デビュー」と題するシンポジウムを行いました。

このシンポジウムでは、進行役の私を除けばすべて 50 代以下の方がプレゼンターを務めました。活動者の高齢化は多くの里山活動団体にとって課題となっています。そこで若い世代の方々に、森の活動にもっとかかわってもらうにはどうするか、そのヒントを 50



午後のシンポジウムには 49 名が参加。会場からの話題提供などもあり、活発な意見交換になりました

雨天にもかかわらず森見学には 28 名が参加。
皆さん熱心に案内者の話を聞いていました



代以下の方々からいただこうというのが趣旨です。

前半は、松戸で活動する田中良典さん(みなみの森)、日向由紀子さん(小浜屋敷の森)、山田優加さん(囲いやまの森)が登壇。活動に入ったきっかけは「働き方改革で自由になる時間ができた」「竹細工の材料がほしかった」「コロナ禍で自然を楽しむ旅行ができなくなつたなど三者三様ですが「地元に多世代の知り合いができた」ことが大きな変化だと語りました。これは後半の登壇者にも共通した活動参加の良さでした。

佐倉、千葉、市川の団体メンバーと意見交換

後半は、ユーカリ木こり倶楽部(佐倉市)の武井洋一郎さん、ちば森づくりの会(千葉市)の松田昭博さん、森のとびら(市川市)の葛原まりさんと田中さんによる

パネルディスカッション。新人が入ってくるルート、会員を増やすため方策などについて話し合いました。

少し意外だったのは、武井さんと松田さんの会では、男女の別にかかわらず、「チェーンソー講習会から入会する例がある」という話。「潜在的に道具を使って木を伐ることに興味のある人がいるのではないか」と言います。また、既存団体の活動を引き継いだ葛原さんからは、その前に1年ほど、商店街で「森の入口カフェ」を営んでいた経緯があり、「そこで森に興味を持つ同世代の人たちとのつながりができた」という興味深い話をうかがいました。

若い世代に活動参加を促す工夫については、ネット情報からの参加がわりとあることから、田中さんより「どこにどんな活動があるかがわかるポータルサイトを開設できないか」という提案がありました。

活動参加を促す仕掛けづくりは、なかなか難しい課題ですが、さまざまヒントが今回の対話にありました。また、地域によって里山活動が抱える課題が異なることもわかるなど収穫の多い交流会となりました。ちば里山センターによれば、今後も年に1度、地域を変えて東葛里山シンポジウムを開催するそうです。

秋の活動あれこれ…報告書より…

- 9/14(日) ぶらっとみんなの森(囲いやまの森)
- 10月 スズメバチ被害があり、全体への注意喚起
- 10/11.18,25, 11/8, 15(土)里やま入門講座
- 10/13(日) ぶらっとみんなの森(囲いやまの森)
- 10/20(月) 活動報告会 (いいなの会/大作の森)
- 10/30(木) 園児来森(石みやの森)
- 11月 甚左衛門の森に大量の不法投棄ゴミ発見
- 11/2(日) モリヒロフェスタ参加
- 11/6(木) 園児来森(石みやの森)
- 11/9(日) 子どもっとまつど「森をあそぼう」(石みやの森)
- 11/11(火) 園児来森 (石みやの森)
- 11/22(土) あそびの森 (囲いやまの森)
- 11/24(月) 一日里山体験会
- 11/29(土) 「里やまQと作るクリスマスリース」
- 12/11(木) 旧齊藤邸竹林整備

★松戸のみどり再発見ツアー No.70

古代から戦国へ 歴史をつなぐ緑地を歩く

松戸市北小金地区は寺社、自然公園を中心に残された樹林地があります。

歴史遺産に触れながら貴重な緑について考えたいと思います。

1月 24日(土)9:30~12:30(雨天中止) 参加費 300円(会員は100円)

集合 JR北小金駅改札口 9:30 集合

持ち物 飲み物、雨具

申込み・問合せ: 090-4078-3703 (藤田 18時以降)

その他 歩きやすい服装でどうぞ

※参加は申込制・先着30名 (1月15日より受付)

～しぜんのコラム 62～

宝石蜂2種に会う

今年の夏は、オオセイボウやルリモンハナバチなど、3種の「青い蜂」に会えて幸せな気持ちになった。秋も「蜂活」の日々が続いたが、11月3日と4日は、ムツバセイボウ(六歯青蜂)とツマムラサキセイボウ(棗紫青蜂)に、しかも同時に会うことができた。



ムツバセイボウ 2025.11.3 21世紀の森と広場



ツマムラサキセイボウ 2025.11.3 21世紀の森と広場

これら2種もオオセイボウ(大青蜂)のなかまで、寄生蜂。ムツバはフタスジズズバチの巣に卵を産み、宿主の幼虫が孵化後に食べるはずだった餌(蛾の幼虫)を、先に孵化して横取りして食べて育つ。ツマムラサキはトックリバチ類などに寄生する。

美しい…。ムツバは1cmほどの小さな蜂で、ツマムラサキは1cmにも満たない、まさに「宝石蜂」。ツマムラサキは11/4、ムツバは11/7を最後に姿を消したが、今から来年の再会を楽しみにしている。

(山田純稔)